



ROCK PAINT

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

居室内で無制限に使用できます。

ロックリアクターコートアクア

ロックリアクターコートUV

超低汚染リアルハイブリッド無機系塗料

ロックリアクターコート シリーズ

水性2液型・弱溶剤2液型・屋根用 弱溶剤2液型

ROCK REACTOR COAT



ロックペイント 株式会社

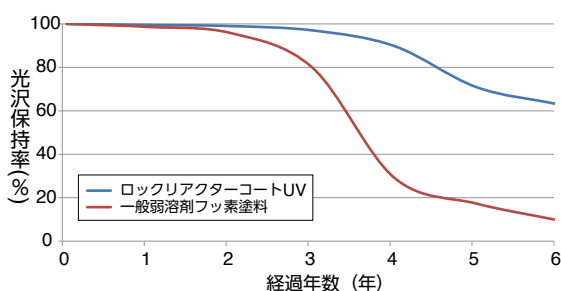
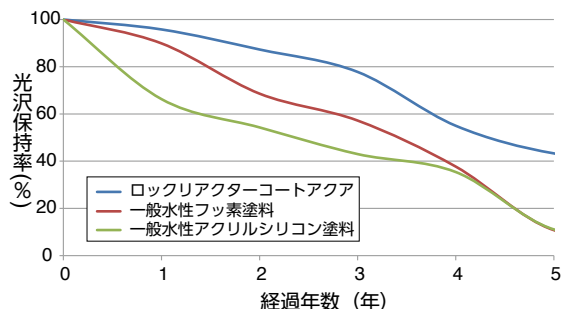
ロックリアクターコート シリーズ

フッ素樹脂塗料の耐久性を凌ぐ次世代の塗料！ いつまでも美しく！

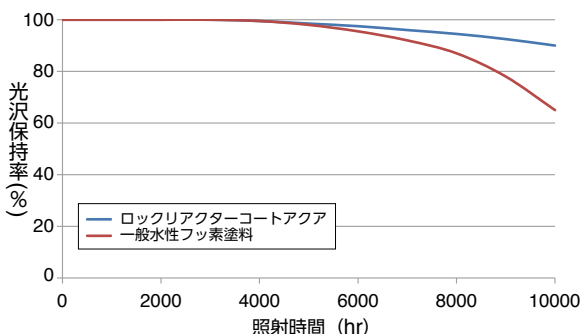
【特長】

- ① 超高耐候性**
シロキサン結合による強固な架橋を形成し、紫外線(UV)をはじめ、風雨、寒暖など、極めて過酷な気象条件においても長期的に安定した性能を発揮します。
(期待耐用年数20年以上)
- ② 超低汚染性**
セラミック成分を複合化した塗膜は、汚染物質が付着しにくく、付着しても雨などが汚染物質の内側に入り込みながら流れ落ちるため、塗装直後の美観を維持します。
- ③ 難燃性**
燃える成分の少ない無機のメリットは、火気に強いことが挙げられます。ガスバーナーの噴射にも燃えにくい塗膜になります。
- ④ 防藻・防かび性**
藻やかびに対して長期間生えにくく、美観を維持します。
- ⑤ 可とう性**
低汚染性のある塗膜は硬くなりがちで割れやすい性質ですが、ロックリアクターコートは変形に対して追従する可とう性のある塗膜を形成します。
- ⑥ 耐塩害性**
海沿いの地域においても被塗物をまもります。

屋外暴露試験 (宮古島)



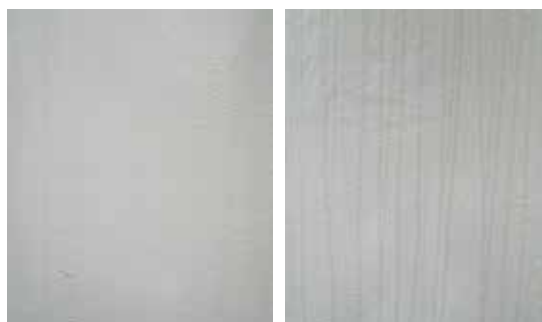
促進耐候性試験 (キセノンランプ)



塗膜性能 [ホワイト] (JIS K 5658参考)

項目	ロックリアクターコートアクア	ロックリアクターコートUV
容器の中の状態	合格	合格
表面乾燥性	23°C (8hrs以内)	合格 (4hrs)
	5°C (16hrs以内)	合格 (6hrs)
塗膜の外観	合格	合格
ポットライフ 23°C	合格	合格
隠蔽率 (%)	90以上	合格
鏡面光沢度	70以上	合格
耐衝撃性	合格	合格
付着性	分類1又は分類0	合格
重ね塗り適合性	合格	合格
耐アルカリ性 飽和Ca(OH) ₂	合格	合格
耐酸性 0.5%硫酸水	合格	合格
耐湿潤冷熱繰返し性	合格	合格
促進耐候性 (XWOM, 2500hrs)	合格 (96%)	合格 (92%)
鉛筆硬度	変形	H
耐屈曲性	2mm	合格

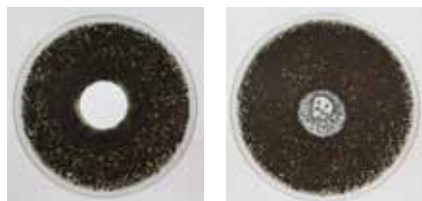
超低汚染性



ロックリアクターコート

一般塗料

防かび試験

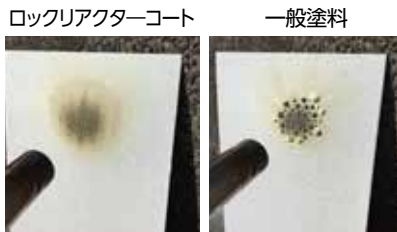


ロックリアクターコート

一般塗料

燃焼試験

(ガスバーナー)
バーナー噴射により、ススが付着していますが、燃えにくい塗膜になります。



ロックリアクターコート

一般塗料

10秒後

可とう性 (耐屈曲試験)



ロックリアクターコート

【製品構成】

製 品	タイプ	主剤 (品番・容量)	硬化剤 (品番・容量)	配合比 (主:硬)	可使時間		
					10℃	23℃	30℃
ロックリアクターコートアクア	水性2液型	127-9050 15kg	127-5110 1kg	15 : 1	8時間	6時間	5時間
ロックリアクターコートUV	弱溶剤2液型	127-9020 12.5kg	127-2110 2.5kg	5 : 1	8時間	5時間	5時間
ロックリアクターコートルーフ	弱溶剤2液型 屋根用	127-9010 12.5kg	127-1110 2.5kg	5 : 1	8時間	5時間	5時間

【標準塗装仕様】

1.コンクリート、モルタル、サイディングボードなどシーラーを使用した塗り替え

工 程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能 時間 (23℃)	
下地調整	旧塗膜ではがれ部分、ふくれ部分などは皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具を用いて完全に除去する。またエプロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄などで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
水性 仕上げ	注1) 下塗り	033ライン ロックカチオンシーラーマルチⅢ	水	ハケ・ローラー : 0 エアレス : 0 (通常不要)	1	0.07~0.13	3時間以上
	上塗り	127ライン ロックリアクターコートアクア 配合比(重量)主剤:硬化剤=15:1	水	ハケ・ローラー : 0~15 エアレス : 0~20	2	0.14~0.16	4時間以上 5日以内
弱溶剤 仕上げ	注2) 下塗り	033ライン ハイパーシーラーエポ 配合比(重量)主剤:硬化剤=5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0 エアレス : 0 (通常不要)	1	0.08~0.13	4時間以上 7日以内
	上塗り	127ライン ロックリアクターコートUV 配合比(重量)主剤:硬化剤=5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0~20 エアレス : 0~20	2	0.14~0.16	3時間以上 5日以内

2.鉄部、非鉄金属部の塗り替え

工 程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能 時間 (23℃)	
下地調整	旧塗膜ではがれかかった部分、ふくれ部分は皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具で、浮き塗膜、さびなどは電動工具、手工具で削りかすとともに完全に除去する。チョーキングした面、汚れ、じんあいなどはサンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
水性 仕上げ	下塗り	061ライン 水性サビカット 配合比(重量)主剤:硬化剤=7:1	水	ハケ・ローラー : 0~ 5 エアレス : 5~10	1	0.12~0.15	8時間以上 7日以内
	上塗り	127ライン ロックリアクターコートアクア 配合比(重量)主剤:硬化剤=15:1	水	ハケ・ローラー : 0~15 エアレス : 0~20	2	0.14~0.16	4時間以上 5日以内
弱溶剤 仕上げ	下塗り	061ライン 2液型サビカット 配合比(重量)主剤:硬化剤=9:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0~ 5 エアレス : 5~10	1	0.13~0.15	4時間以上 7日以内
	上塗り	127ライン ロックリアクターコートUV 配合比(重量)主剤:硬化剤=5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0~20 エアレス : 0~20	2	0.14~0.16	3時間以上 5日以内

3.住宅用化粧スレート（新屋根材）、セメント瓦、スレート瓦などの塗り替え

工 程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能 時間 (23℃)
下地調整	高圧洗浄によりゴミ、汚れ、こけ、かびなども完全に除去する。高圧洗浄できない場合は、ホースで水を流しながらデッキブラシ・金属ワイヤーブラシなどで入念に除去する。旧塗膜ではがれ部分、ふくれ部分はケレン具を用いて完全に除去し、乾燥させて清浄な面とする。					
下塗り	注3) 033ライン ハイパーシーラーエポ 配合比(重量)主剤:硬化剤=5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0 エアレス : 0 (通常不要)	1	0.08~0.13	4時間以上 7日以内
上塗り	127ライン ロックリアクターコートルーフ 配合比(重量)主剤:硬化剤=5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0~20 エアレス : 0~20	2	0.14~0.16	3時間以上 5日以内

4.金属製屋根、トタン屋根など塗り替え

工 程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能 時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜ではがれかかった部分、ふくれ、さび発生部分などは電動工具を主体に皮スキ、金属ワイヤーブラシなどのケレン具で完全に除去する。チョーキングしたところ、ゴミ、汚れなどはサンドペーパーなどで除去した後、高圧洗浄を行い、乾燥させて清浄な面とする。					
下塗り	061ライン 2液型サビカット 配合比(重量)主剤:硬化剤=9:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0~ 5 エアレス : 5~10	1	0.13~0.15	4時間以上 7日以内
上塗り	127ライン ロックリアクターコートルーフ 配合比(重量)主剤:硬化剤=5:1	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0~20 エアレス : 0~20	2	0.14~0.16	3時間以上 5日以内

注1) 下塗りは下地の状況に応じて、ピニロックエラストティックフィラーⅢ、ロックSBフィラーを使用した仕様もあります。

注2) 下塗りはユメロックシーラーも使用できます。また、ピニロックエラストティックフィラーⅢ、ロックSBフィラーを使用した仕様もあります。ただし、エポシーラーマルチは下塗りに使用しないでください。

注3) 下塗りはユメロックシーラーも使用できます。また軽度な不陸がある場合は、ロック水性プロテクトルーフ サフを使用してください。

◎ 夏場の高温時は硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かず速やかに実施してください。

◆ 施工上の注意事項 (ロックリアクターコートアクア・ロックリアクターコートUV・ロックリアクターコートルーフ)

- 塗料は全体をよくかき混ぜ、均一にしてから使用してください。
- 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯れ葉などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- 防藻・防かび効果は繁殖を抑制するもので、すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 水性の塗料で塗り替える場合、さびの削りカス(さび、鉄くず)は完全に除去してください。塗り替え後さびの発生の原因となります。
- 新しいコンクリート、モルタルなどのアルカリ質素材は、含水率10%以下、pH9.5以下になるまで十分に乾燥させてください。
- 塗装中および塗装後24時間は5℃以下にならない場所で使用してください。また、湿度が85%以上の場合は塗装を避けてください。
- たえず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- 降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測されるときは外部の塗装は避けてください。
- 素地が直射日光などで極端に熱くなっているときは塗装を避け、少し冷えてから塗装してください。
- 乾燥過程で霜、夜露などの影響を受ける時間帯や、昼と夜の温度差が大きい時期は、結露による黴びけ現象が起こる場合があります。ため、時間を考慮して塗装を行ってください。
- トタン板などで垂鉛メッキの目分量が多い場合には、下塗り塗料との密着が悪くなる場合があります。新しいトタン板に塗装する場合は、3-4か月屋外放置後表面の光沢がなくなってから塗装してください。
- タンの折り曲げ部分、継ぎ目部分などは、膜厚が十分得られない場合がありますので、先に捨塗りすることをお奨めします。
- 塗装時は、高い所から降り口を確保しながら塗装してください。塗りがたての面は滑りやすいため絶対に乗らないでください。塗り残しがあった場合も乾燥後に補修塗りをしてください。
- 作業時の安全には十分注意し、高所で作業する場合は安全ロープをかけて行ってください。
- 硬化剤は必ず専用硬化剤を使用してください。他の硬化剤を使用すると仕上がりが外観、塗膜性能に悪影響を及ぼします。
- 塗料液と硬化剤には、湿気と反応する成分が含まれています。貯蔵の際は密栓し、冷暗所に保存してください。また、開栓後はできるだけ早めにご使用ください。水・アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
- 二液型塗料を使用する場合、主剤と硬化剤の配合比は必ず守り、可使用時間内(ロックリアクターコートアクア:6時間[23℃]、ロックリアクターコートUV・ロックリアクターコートルーフ:5時間[23℃])に使い切ってください。また高温時は可使用時間が短くなるため注意してください。
- 溶接接合部や下塗りにキズがある場合は、その部分が塗膜不良となりやすいので、素地調整後、下塗り塗料(サビ止め塗料)で補修塗装を行ってから下塗り塗装してください。
- ビロックエラストックプライマーⅢを砂骨ローラーで塗装する場合には、最初に塗りを行い、その後ならし塗りをし、塗り継ぎにムラが生じないように行ってください。
- 塗装方法により多少色相が異なる場合がありますので、入り隅のハケ、ローラー項目はできるだけ興までローラー塗装してください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。特に吹付け塗装の場は注意してください。
- スプレーノズルの先端は、時々洗浄してください。作業能率の低下および塗らムラの原因になります。
- 水性塗料などに使用するハケ・ローラーなどの塗装用具は水性用を使用し、用具や手に付いた塗料は使用後できるだけ早く水で洗い落とすしてください。
- 補修部分が目立つことがありますので、補修塗りの場合は同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行ってください。
- シーラー塗装後、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗りを行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間は守ってください。
- 下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープなどで確認し、はがれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。
- シーラー類や各種上塗り塗料には防錆性がありませんので、金属部分が錆びている場合、錆などを除去、ケレンし、適性のあるサビ止め塗料を下塗り後、上塗り塗装を実施してください。
- シーラーを吸い込みの著しい部材に塗装する場合、「ぬれ感が出るまで」を目安に塗装を行ってください。
- 塗色が濃色の場合、塗膜を強くすると色落ちすることがありますのでご注意ください。
- ドアパッキン、緩衝材など可塑性を含むプラスチック製品に塗膜が接触したり、直接塗装を行ったりすると軟化することがありますので、塗装を避けてください。
- 屋外セメント系素地に段差や素穴などがある場合は、セメントフィラーを用いて不陸調整を行ってください。また吸い込みの多い面などを塗る場合は、各種ロック建築用シーラーで適切なものを使用してからあらかじめ下塗りを行っておいてください。ただし、エポキシシーラーまたは下塗りに使用しないでください。
- 新屋根材などで素地に軽度の不陸がある場合は、下地調整材としてロック水性プロテクトルーフ サブを使用してください。
- 新屋根材などで塗装後水切り部で瓦が重なり合った部分に塗料が付着している場合、剥離の原因になりますので、必ず皮スキなどを用いて塗料の除去と縁切りを行ってください。
- 露出している瓦の素地が脆弱な場合は、剥離の原因になりますので、塗装しないでください。(瓦の張り替えをお奨めします。)
- エルメシオンパテの外部での使用は避けてください。
- 改修塗装の場合、素地の種類によって塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い試し塗りすることをお奨めします。
- 旧塗膜が弾性系の塗膜(弾性リシン、弾性スタッコ)やアクリル樹脂エナメルなどの場合、すでにひび割れが発生していることがあります。そのまま塗装するとひび割れが拡大することがありますので、ふくれ箇所は完全に除去してください。
- 蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、その他断熱性が付与された建材など)を使用し高断熱型住居の外装を塗装する場合、状況により蓄熱、水分、素地、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、素地の変形、塗膜のふくれ、はがれなどが発生する場合があります。詳しくは最寄りの営業所にお問い合わせください。
- シーリング材への塗装は、シーリング材の種類、劣化度により付着不良、収縮割れなどを起こり、表面が汚れてくる場合がありますので塗装は避けてください。やむを得ず塗装する場合、シーリング材が完全に硬化後、シーリング材用プライマー「ロックトッププライマー-S」を塗装してください。またプライマーで処理してもシーリング材の種類によっては汚れ、付着不良、剥離、収縮割れが発生する場合があります。
- サイディングボード表面に反り、うねりが発生している場合は、ビスの増し打ちなど状況に応じた補修を行ってください。また補修が困難な場合はボードの張り替えをご検討ください。
- 比較的緻密な素材である押出成形板やGRC板へ塗装する場合は、適性のあるコロメックシーラーまたはハイパーシーラーエポを下塗りに使用してください。
- フッ素コート処理をはじめ無機系や光触媒処理のサイディングボードには、ハイパーシーラーエポを下塗りに使用しないでください。
- 各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかつた場合、塗膜不良となることがあります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は、十分な性能が得られないことがあります。
- 標準塗装仕様中の標準塗付量については、塗装時のロスを考慮に入れた数値です。
- 吸い込みの著しい部材については、標準塗付量より多くなる場合があります。
- 低汚染性については、被塗物の種類や建物の形状により、また、施工後特に塗膜は十分に乾燥する前、もしくは乾燥して初期の段階で天候不良であった場合、その効果が十分に発揮されない場合があります。
- 塗装後24時間以内に降雨、結露があった場合、白化やシミが残る場合があります。また低温時や高温時、通風が悪い場合も白化やシミになる場合があります。
- 夏場(高温)で硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かずして実施してください。塗り重ね時間があき過ぎると層間で密着性が低下しやすいため、塗装間隔があく場合は再び下塗りを塗装するか、ペーパーかけを実施してください。
- 塗り替えた屋根面の塗膜は、以前の塗膜と比較して光沢、平滑性が向上し一般的に滑りやすい傾向にあります。塗装後の屋根上での作業には十分注意してください。
- 冬期においては、屋根上の雪が滑りやすくなるのが想定されます。安全確認を行い、屋根に滑り止めなどの付帯設備を設置するなどの対策をとることをお奨めします。
- 洋風コンクリート瓦(モリエル瓦、スカンジヤ瓦)、粘土瓦(いぶし瓦、釉薬瓦)、アスファルトシングル材への塗装はできません。
- 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では、塗膜の白化、ふくれが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- つやの調整は、被塗物の形状、状態、塗膜厚や塗色などにより、実際のつやと少し違って見える場合があります。あらかじめ試し塗りを実施し、確認してください。また上塗り1回目の塗装はつやを有りを塗装してください。
- 塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーを使用してください。
- 塗装作業中および乾燥中は換気を十分にを行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- ロックリアクターコートUV・ルーフの硬化剤はイソシアネート化合物を含んでおり、スプレーダストを吸引すると鼻、のど、気管支などに障害を起こすおそれがありますので、換気を良くし、適切なマスクを着用して作業を行ってください。過去にアレルギー症状を経験している人は取扱わないでください。
- 上塗りに鮮やかなエロース、レッド系、ブルー系、グリーン系の塗色で仕上げた場合、塗膜の隠蔽性が弱い傾向にあるため、先に隠蔽性のよい(近似色)で下塗り塗装した後、上塗り塗装してください。
- 暗所で長期間塗膜を乾燥させると黄変する場合がありますが、塗膜物性に影響はありません。
- このカタログに記載されている下塗り塗料などの詳細な使用方法については、それぞれカタログをご参照ください。
- 引火性の危険物および、健康に有害な有機溶剤などを含有していますので、製品容器の注意書きおよび安全データシート(SDS)をよく読み、注意事項を厳守してください。

◆ 安全衛生上及び取扱上の注意

【ロックリアクターコートアクア】

【製品の危険性・有害性】

危険性のほとんどない製品ですが、目や呼吸器に入るとは避けてください。

【救急処置】

- 目に入った場合は直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化のあるときは医師の診察を受けてください。

【取扱注意事項】

- 塗装中、乾燥中ともに換気をよくしてください。
- 取扱中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護メガネ、保護手袋、保護マスクを着用してください。
- 取扱後は手洗い及びうがいを行って十分に洗い、作業着等に付着した汚れをよく落とすしてください。
- よくふたをして直射日光を避け、5℃以上40℃以下の安全でかつ子どもの手の届かない場所に保管してください。
- 容器は中身を使い切ったから破棄してください。
- 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。

【施工後の安全性について】

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引き渡しの際は、施主に対して安全性に十分に注意を払うようご指導ください。
- 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ペンキ塗料であるなどの立看板等を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接する事のないようご配慮願います。安全データシート(SDS)をよく読んでから取り扱ってください。

【ロックリアクターコートUV/ルーフ】

【製品の危険性・有害性】

- 引火性の液体である。
- 溶剤蒸気を吸入すると有機溶剤中毒になるおそれがある。
- 目、皮膚、粘膜等に対し刺激性がある。

【救急処置】

- 目に入った場合は直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化のあるときは医師の診察を受けてください。

【取扱注意事項】

- 取扱は引火源のないところで、特に静電気が発生するよう

な衣服、取扱は避けてください。

- 取扱作業所には、局所排気装置を設け、塗装時及び乾燥時には十分換気を行ってください。
- 溶剤蒸気やスプレーダストを吸引しないように、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクなどの適切な保護具を着用してください。
- 取扱中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護メガネ、保護手袋(耐溶剤性)、長袖作業着を着用してください。
- 取扱後は手洗い及びうがいを行って十分に洗い、作業着等に付着した汚れをよく落とすしてください。
- よくふたをして直射日光を避け、5℃以上40℃以下の安全でかつ子どもの手の届かない場所に保管してください。
- 容器は中身を使い切ったから破棄してください。
- 指定された以外の製品と混合しないでください。
- 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。
- 火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。

【施工後の安全性について】

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引き渡しの際は、施主に対して安全性に十分に注意を払うようご指導ください。
- 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ペンキ塗料であるなどの立看板等を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接する事のないようご配慮願います。

安全データシート(SDS)をよく読んでから取り扱ってください。



ロックペイント株式会社

東京営業部 〒136-0076 東京都江東区南砂2-37-2
TEL (03) 3640-6000 FAX (03) 3640-9000

札幌営業部 〒003-0011 札幌市白石区中央一条4-3-48
TEL (011) 812-2761 FAX (011) 812-9304

仙台営業部 〒983-0044 仙台市宮城野区宮代2-3-11 凌正ビル201
TEL (022) 349-8677 FAX (022) 283-3255

西関東営業部 〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本1-15-16
TEL (042) 700-3111 FAX (042) 700-3112

大阪営業部 〒555-0033 大阪市西淀川区姫島3-1-47
TEL (06) 6473-1650 FAX (06) 6473-1000

名古屋営業部 〒454-0059 名古屋市千川区福川町1-1-3
TEL (052) 351-6500 FAX (052) 361-7433

岡山営業部 〒701-1134 岡山市北区三和1000-34
TEL (086) 294-1201 FAX (086) 294-6966

福岡営業部 〒811-0119 福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜3-2-1
TEL (092) 962-0661 FAX (092) 963-1241

URL <https://www.rockpaint.co.jp>

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。
また記載内容について、法律で認められる範囲を超えての転載・複製を禁止します。

販売店